学校番号	２１０２

令和３年度　芸術科　書道

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	書道Ⅰ「書Ⅰ」　（教育出版）						
副教材等	自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

表現及び干渉の活動において、単に文字を美しく書くだけでなく、感受性を持って書表現を鑑賞することにより、表現の意図を理解し、書写技術の向上を目指す。

書表現が身近な存在であることを理解し、文字文化の成り立ちや歴史的背景とともに、諸表現の理解を深める観点から、文字の変遷、伝統・文化に関する学習活動も実践する。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書が身近なものであることを実感し、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞ができる態度を育む。	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、書の創造的活動の喜びを味わい、自らの意図に基づいて構想し、積極的に表現できる態度を育む。	創造的かつ効果的な書表現をするために、使用する筆記具の特性を理解し、表現方法を選択し活用できるよう、様々な方言技術の習得をめざす。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを書の表現意図を、創造的に鑑賞する態度を育む。
評価方法	提出作品 ワークシート	提出作品 ワークシート	提出作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
中間	ガイダンス	「芸術としての書道」 今後の授業内容として、書写的に文字を美しく書くための技術習得だけでなく、芸術的に感受性を持って鑑賞・書表現をし、書画身近なものであることや、文字の変遷、伝統・文化に関する学習活動も実践することを確認する。	○				a:国語科書写と芸術科書道の違いを理解し、今後の授業に向け期待感を持って意欲的な姿勢を持てたか。	レポート
	硬筆での楷書	自分の氏名を楷書で書く 「楷書の学習」での文字構築を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書くこと、府d何から丁寧に書く習慣を身につける。	○	○			a:日常もっとも書く機会が多い自分の氏名を美しく書くために積極的に取り組んでいるか。 b:文字構築を自分の氏名に当てはめ、丁寧に美しく書けているか。	作品
	楷書の学習	「書写からの展開」 書写からの展開を考え、楷書の基本点を書く上での技術的確認・習得をめざす。また、楷書の文字の構築性などを考えながら文字を書く習慣を身につける。	○		○		a:積極的に取り組み、技術の習得に努めているか。 c:筆の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、構築性を考え書作しているか。	作品 レポート
	・九成宮醴泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・建中告身帖 など	「古典臨書」 唐の四大家を、形臨中心に行い、書風の違いによる表現技術の習得と鑑賞する習慣を身につける。			○	○	c:古典の違いを技術的に書き分けるための工夫と技術の習得 d:楷書の成り立ちや書く古典の歴史的背景を理解し、感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート

期末	篆刻	「篆刻」 落款印を作成し、作品に押印できるようにする。	○				a:作品に押印し、作品として完成させる習慣をつける。	作品
	行書の学習 ・書写からの展開 ・蘭亭叙 ・風信帖 など	古典臨書を中心に楷書と行書の違いを理解し、その技法を学習する。		○		○	b:行書の特徴を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を表現できているか。 d:各古典の特徴を理解し、感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート
	仮名の学習	「いろは歌」から古典での連綿まで展開していくことで、仮名の用筆法を習得する。 平仮名・片仮名の成立ちを学習する。	○		○	○	a:平仮名の成立ちなど日本語表記に関心を持ちつつ、積極的に取り組んでいるか。 c:仮名の用筆法を理解し、基本点画の習得に努め、古典の技法を表現できているか。 d:日本古来の古典の特徴・美しさを理解し、感性を持って創造的に鑑賞できているか。	作品 レポート
	「漢字仮名交じりの書」 「筆文字の可能性」	「線の表現」 用具・用材などの特徴を理解し、筆の機能を体験的に学習する。		○		○	b, d:筆の特徴を理解し、製作時の表現意図が作品に反映されているか。	作品 レポート
		「文字で表現しよう」 題材のイメージや意味を考え、相応しい表現を創意工夫して書作し、その難しさや面白さを体感する。		○		○	b, d:筆の特徴を理解し、製作時の表現意図が作品に反映されているか。	作品 レポート
		「言葉・詩句を書こう」 断言での学習経緯を踏まえ、表現を工夫することで、他作品の製作意図を考え干渉する能力を身につける。				○	d:作品の相互批評を行い、自他の作品の意図を考え、個々にしか書けない文字の尊さを感じているか。	作品 レポート

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。